

できたよ 雑穀菓子

花北青雲高（遠藤敏夫校長、生徒469人）のビジネス情報科と総合生活科は、花巻特産の雑穀を使った菓子を開発し、花巻市石鳥谷町北寺林の同校で21日に一般公開される青雲祭で販売する。大槌町のワカメを使ったコラボ商品も出品予定で、生徒らは被災地を少しでも元気づけたいと張り切っている。

花北青雲高



（左から）雑穀大福と大槌のワカメと雑穀を使ったクッキー、ケーキを紹介する花北青雲高の生徒

あす文化祭で販売 大槌のワカメとコラボも

ビジネス情報科2、3年生は、ひえ粉を使った「雑穀かりんとう」と生地を20%きび粉を練り込んだ「雑穀大福」を売り出す。大福は昨年、手作りでは量産できず、販売を断念したため再挑戦となる。あんとかリームチーズ、クリを入れた大福を生徒が考案し、地元の和菓子店菓匠丸文（中村弘樹社長）が100パック（2個入り）を限定生産する。1パック300円。総合生活科3年生は、大槌産のワカメと雑穀のコラボ商品「大かめとはな粉のクッキー、クッキー」を手作りし、ケーキ2個入り（80円）、クッキー6枚入り（50円）を各800袋販売する。「復興支援教育」の一環で、生徒が6月に同町を訪れ、地元の人たちから話を聞く中で自分たちが復興に関わる方法を考え、商品開

発に取り組んだ。同科の佐々木睦未さん（3年）は「乾燥ワカメが口の中で大きくならないよう、すり鉢で粉にするのが大変だった。小さなことだけど、商品を使うことで大槌に元気になってほしい」と思いを込める。同日は、沿岸の食品など14商品を仕入れ販売する「青雲マーケット」や各科の発表、作品展も公開される。